



研究部会報告

●金融と投資のOR●

●第11回

日時：3月28日(土) 14:00～17:00 出席者：35名

場所：東京工業大学百年記念館3Fフェライト会議室

テーマと講師：

- (1) 「日経225オプションにおけるヴォラティリティ・トレーディング」

下村元之 (山一証券 株式総括部)

大阪証券取引所に上場されている日経225オプションを使ったヴォラティリティ・トレーディング(相場の変動の大小について損益を得るようなオプション取引)の投資手段としての有効性について報告した。戦略としては、a) ヴォラティリティの変化に沿って売買する、b) 同時に割安(ヴォラティリティの低い)銘柄を買い、割高を売る、c) ヴォラティリティのミスプライスをとる、ということが考えられるが、流通性や清算値の不確定性という問題点もある。「オプションは売った方が儲かりやすい」ということが言われていたが、ここでも検証された。その理由として、証拠金が多く必要、損失限度が確定していないなどのミスプライスを起こす原因が存在することを指摘した。ただし、今後はアメリカン・タイプからヨーロッパン・タイプにかかわることなどから、ミスプライスが是正される可能性もあることも付け加えた。

- (2) 「金利の期間構造に関する推定方法」

高森 寛, 清水康司 (青山学院大学)

国際政治経済学部

金利の期間構造の推定方法について報告した。推計方法として、Carleton & Cooper, McCulloch, Vasicek & Fong, Hougletの方法があるが、これらは真の期間構造の推定が十分に検証されていない。こうした点から、離散型のCarleton & Cooperによる推計方法を

もとにモデルの設定を行ない、より信頼のおける「金利の期間構造」の推定方法の改良を試み、その推定能力についてシミュレーションによって検証した。また、状態空間モデルの枠組みを用いた推定方法についても述べた。そして、いくつかのマクロ経済指標について、金利の期間構造をうまく表現できるかどうかを検証した。

●動的計画法●

場所：日科技連

日時：3月30日(月) 18:00～20:00

テーマと講師：1) 「今後の運営方針」

- 2) 「ファジィ適応制御過程」

小田中敏男

あるファジィ環境にある確率制御過程を考える。ある時間区間における状態変数がある特別な境界を越える確率を最小にする最適政策の性質について調べる。期から期に雑音分布関数に変化する場合に定式化された。各期の最適政策は各期毎に異なる単一制御水準によって特性化された。また分布が定常であるが未知である動的模型も考察された。最後にある仮定のもとにある数値例が議論された。

●人間のグローバル経営システム●

●第13回

日時：4月4日(土) 14:00～17:00 出席者：8名

場所：東京都勤労福祉会館(中央区新富)

テーマと講師：「グローバル経営への提言：まごころの経営」

井上淳一 (M&D戦略研究所)

千代田工科芸術専門学校)

経営とは、外部から適正に調達した経営資源によって、社会が求める新しい価値を供給することにより社会に貢献し、その報酬として利益を得るという一連のはたきであり、それをボーダレスでグローバルな時代において達成するには「まごころの経営」によらねばなりません。